

## 第 73 回山形県自作視聴覚教材コンクール 全体講評【児童生徒作品部門】

どの作品もテーマへの熱い思いが感じられ、制作意図の明確な力作がそろった。身近なところに課題意識をもち、主体的に調べたり、取材したりする児童生徒の姿が思い浮かぶほどに、制作に向かうまでの探究的な学びの過程の充実ぶりがうかがえる。作品を制作する中で、関わる人たちを巻き込みながら学ぶ姿が見られる作品もあり、今後の活躍も大いに期待できる。

また、作品のほとんどがデジタルコンテンツを使用したものとなっており、一人一台端末の導入の効果があると感じる。今後も、ますますデジタルコンテンツを使用する場面は増えてくるだろう。このような中にでも、様々な表現方法があることを知り、目的や伝える相手に応じて表現方法を選択できるようになってほしい。また、どのような場面で、どのように活用することを期待するのかといった視点をもつことも大切である。そうした視点をもつことで言葉や表現方法を吟味したり、構成を工夫したりすることができ、思いがより伝わるようになるのではないだろうか。